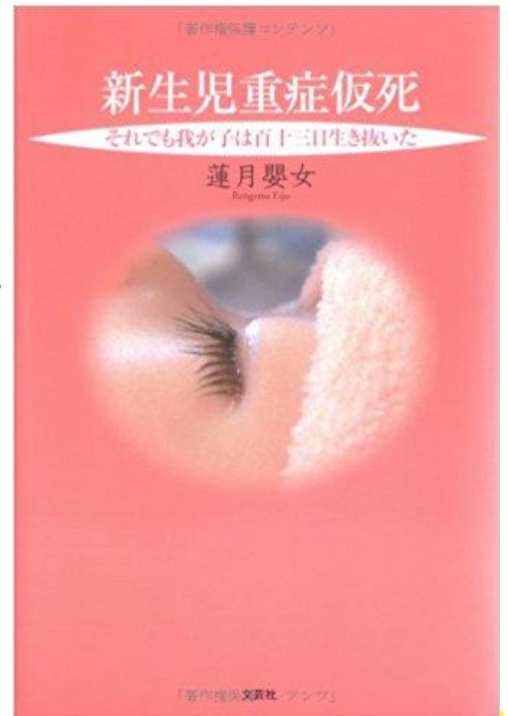


親子道徳だより

平成30年6月15日
坂井中学校 道徳部会

6月1日(金)6限目に「親子で学ぶ道徳講座」が行われました。全校生徒とともに保護者の方々のご参加をいただきました。講師には蓮月嬰女(れんげつ えいじょ)さん—本名 矢代恵利(やしろ えり)さん—をお迎えして「親と子の絆」についてお話をお聴きしました。

矢代さんは出産時、第一子の姿月さんが「新生児重症仮死」と診断されました。パワーポイントに映し出された妊娠八ヶ月の矢代さんの写真。「この妊婦の写真を見て、どんな未来を想像しますか？」という問いかけから講演は始まりました。誰もが無事新しい命が誕生することを想像していたのに、待っていたのは「新生児重症仮死」という現実。当時の出来事を姿月さんの写真と共に話され、生徒たちは熱心に矢代先生のお話に耳を傾けていました。113日というわずかの期間ながらも濃密な母子のふれあいと、そこからはぐくんできた強い絆を語り前を向く矢代さんの姿に、「当たり前のように当たり前ではない幸せ」について考えさせられました。矢代さんから話していただいたこと、それに対する生徒の意見や感想を掲載させていただきます。



子を亡くした母が経験した強い絆—初めての抱っこ忘れられず—

姿月は出産時の事故で脳に酸素がいかず、生まれてすぐに別の大きな病院へ搬送されました。初めて対面したのは点滴の管や人工呼吸器を付けた姿。ショックというよりも、いとおしくていとおしくてしかたがありませんでした。お医者さんは「2~3日が山です」と言いました。

母乳が出ても与えることができません。生後3日目、胸がカンカンに張り、主治医から「(母乳を)止める薬を出そうか？」と聞かれました。でも、いつか姿月の体の中に入れてたい。その可能性を信じ、搾乳することに。キッチンで搾乳して冷凍庫へ。毎回、泣きながらの作業でした。

子どもは動く、笑う、泣く、寝る…。姿月にはその「当たり前」がありません。でも生後10日ごろ、少し体を動かしました。その5日後、母乳を1ミリリットルずつ、鼻のチューブから注入してもらえました。姿月も、当たり前を手に入れるために保育器の中で必死に生きていました。

たった一人での1カ月検診。気持ちが沈み、自分の体なんてどうでもいいと思った。そんな気持ちを医療スタッフが察してくれたのか、初めて抱っこさせてもらえました。抱っこすると愛情が伝わると言いますね。姿月も、跳び上がるくらいうれしかったと思います。重さ、ぬくもり、におい…。忘れられません。その時のビデオがあるのですが、まだ見るできません。80歳くらいになったら見られるかなと思っています。

今日の講座を聞いて感じたこと、考えたことは？



- 私は現在 3 人兄妹ですが、本当は姉と兄の間にもう 1 人姉がいました。けれども矢代さんの姿月ちゃんのように生まれて少したった後に亡くなりました。母は、いまでもその子「ひなた」ちゃんの誕生日になると、遺影に手を合わせています。私も「頑張ったね。」と心の中で話しています。私たちと同じ気持ちの人がいるのだと共感し、思い出して泣きそうになりました。

- 今日の講演をお聴きして、「歩く、話す、食べる」などのことが「あたりまえ」ではないのだ

と思いました。113 日でこの世を去った姿月ちゃんを思うと「あたりまえ」に感謝しようと思いました。僕もお腹の中で双子だったけれど、もう 1 人のぼくの兄弟がお腹の中で育たずに亡くなってしまったという話を聞いたので少しだけ気持ちが分かるような気がします。これからは姿月ちゃんのためにも、ぼくの弟のためにも「あたりまえ」に感謝して生きていきたいです。

- 今まで赤ちゃんがお母さんのお腹の中にいたら、普通に生まれてくるのがあたりまえみたいに思っていたけれど普通が幸せだということは今まで思いもしませんでした。矢代先生のお話を聞いて、親と子のつながり、「絆」って宝物なのだなあと実感しました。

今日聞いたお話はずっと忘れないと思います。普通が幸せ、当たり前が幸せということは、誰かに言われないと気づかないと思います。

私はこれから産んでくれたことを親に感謝して、あたりまえを大切にしていきたいです。

- 矢代先生のお話を聞いて、あたりまえがあたりまえではないということを知りました。いつも、何気ない、些細な出来事は実はおおいに感謝すべきことだったのです。

だから、今後ぼくは日常生活の中でたとえいやなことがあっても、「イライラできることはありがたい」、「疲れることはありがたい」、「生きていられることはありがたい」と思って過ごしていきたいです。

- 私は「親と子の絆」はとても大切なのだと改めて気づかされました。母が私を産むときの気持ち、育ててくれているときの気持ちを考えることができました。矢代先生の体験談を聞いて、自分がいつか母親になるときも、自分の子どもをかわいがり、愛情をもって育てていきたいと思います。このお話を聞いたことはとてもよい経験になりました。

生徒の皆さん、たくさんの感想をありがとうございました。この講座をきっかけに「命の大切さ」だけではなく「親が子を思う気持ち」「本当はあたりまえではない日常」について考えることができたのではないのでしょうか。

